

メデイカル メガバンク通信



**IMM 地域住民健康調査へのご協力者が
25,000人を超えました!**

2015年4月6日より、一戸町を皮切りにスタートした平成27年度特定健診参加型健康調査。今年度は、一戸町、軽米町、二戸市、九戸村、山田町、陸前高田市の特定健診会場に当機構のスタッフが伺い、調査を実施しています。沿岸地域の活動拠点であるサテライトでも順調に健康調査が行われており、これまでのご協力者が25,000人を超えました。(8月末現在)

皆さまのご理解、ご協力に心より感謝申し上げます。



平成27年度 I・M・M地域住民健康調査 引き続き、皆様のご協力をお願いいたします

特定健診参加型健康調査

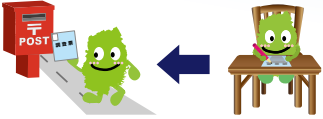
今年4月6日よりスタートしたH27年度特定健診参加型健康調査。今年度は一戸町、軽米町、二戸市、九戸村、山田町、陸前高田市の健診会場に伺い、調査を実施しています(のべ64日、8月末現在)。各自治体の皆さまのお力添えにより調査は順調に進んでおります。

当事業をご理解いただき、ご協力くださいました皆さまに、心よりお礼申し上げます。



● 調査票の返信にご協力ください ●

特定健診会場にてご参加いただいた皆さまには、調査票を3冊お渡ししています。調査票は質問量が多いため、ご面倒に思われる方もいらっしゃると思いますが、皆さまの身体やこころの状態をより詳しく調べるために必要なものですので、ご記入・ご返送にご協力ください。



サテライト型健康調査

沿岸4拠点(久慈、宮古、釜石、気仙)のサテライトと矢巾センターでは、血液検査や尿検査、血圧・身長体重測定をはじめ、骨密度測定や内臓脂肪測定、血圧脈波測定などを無料で実施しています。(サテライトにより検査項目が異なる場合があります。)

完全予約制のため、調査への参加をご希望の方は、事前にご予約の上、お越しください。

● お問い合わせ先(フリーダイヤル)
0120-1000-867
I・M・Mサテライト係

追跡調査にご協力ください

I・M・M地域住民健康調査は、一人ひとりの健康状態を数年間にわたり追跡し、未曾有の震災のストレスによる健康への影響などを調べます。そのため、健康調査後、数回にわたり皆さまの健康状態をアンケートでお伺いします。初回の調査票より質問量は少なく、記入時間は15分程度です。ご面倒かと思いますが、引き続き、皆さまのご協力をお願いいたします。



I・M・M事業の詳しい内容は4ページをご覧ください。

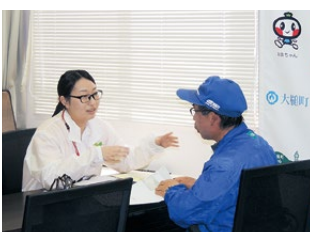


今年度参加しましたイベントをご報告します。ご来場いただきました皆さまにお礼申し上げます。I・M・Mでは、これからも皆さまと一緒に未来へつながる健康づくりのお手伝いをさせていただきたいと考えております。

集団結果説明会を開催

5月10日に大槌町、8月21日に二戸町で健康調査の集団結果説明会を開催しました。

この説明会では、特定健診参加型健康調査にご協力いただいた皆さまを対象に、血液検査や尿検査など、順次お送りしております結果報告書の見かたをご説明するほか、個別相談も実施しました。健康づくりは、ご自身の健康状態と向き合うことから始まります。今後健康調査実施地域では説明会を開催する予定です。対象地区の皆さまは、是非ご参加ください。



健康のつどいに参加

5月30日に陸前高田市健康のつどいに参加しました。当日は約3000人の方が来場され、I・M・Mのブース「あなたと未来の健康づくり」にもたくさんの方にお立ち寄りいただきました。

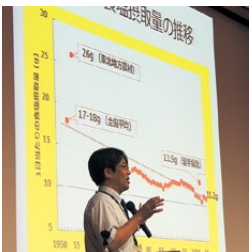
ブースでは、I・M・Mの理念やこれまでの調査から分かったことなどを話し、健康調査を通じて未来へつながる健康づくりに取り組んでいることをPRしました。



市民公開講座で講演

7月29日に岩手医科大学矢巾キャンパス大堀記念講堂で岩手医科大学第36回市民公開講座が開催されました。「いつわの健康問題を考える」長期健康調査の結果から」と題し、I・M・Mの事業説明のほか、H25・26年度に行った地域住民コホート調査(長期健康調査)の解析結果から見えてきた岩手県の健康問題や対策について、臨床研究・疫学研究部門の丹野副部門長が講演しました。

岩手県で長年の課題となっている脳卒中や心疾患について、病気のメカニズムを分かりやすく解説しつつ、疾病予防の観点から、減塩するにはどうしたら良いか具体例を挙げるなど、受講者の皆さまに寄り添った内容で、大盛況のうちに幕を閉じました。



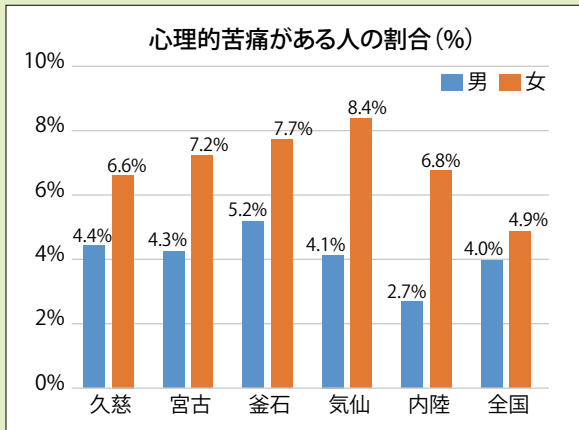
研究成果

健康調査

健康調査等による研究成果をお知らせします。今後も調査・研究を継続し、皆さまの健康向上に役立つ様々な成果を創出していきます。

臨床研究・疫学研究部門の丹野副部門長らが、H25年度の健康調査でご協力いただいた約8千名のデータを分析した結果を発表しました。分析から、心不全や腎臓疾患は震災前に岩手県以外で行われた調査の結果と比べて大きな差は見受けられませんが、気分が落ち込むなど抑うつ傾向の方は若い世代に多くみられること、また、震災を思い出すことで生活に支障が出るなど外傷後ストレス反応(PTSR)の疑いがある方は、高齢になるほど割合が高くなっていることが示されました。

震災から2年を経ても、被災地にはこのころの健康に問題を抱えている方が全国に比べ多い傾向があり、沿岸地域では心理的苦痛が高い傾向にあることが分かりました。(図1)ストレスといっても、震災直後のものや、その後の生活によるものなど、原因は様々です。結果の分析を進め、それらの要因や震災ストレスと発病の関連性などを明らかにし、被災地の医療復興につなげていきます。



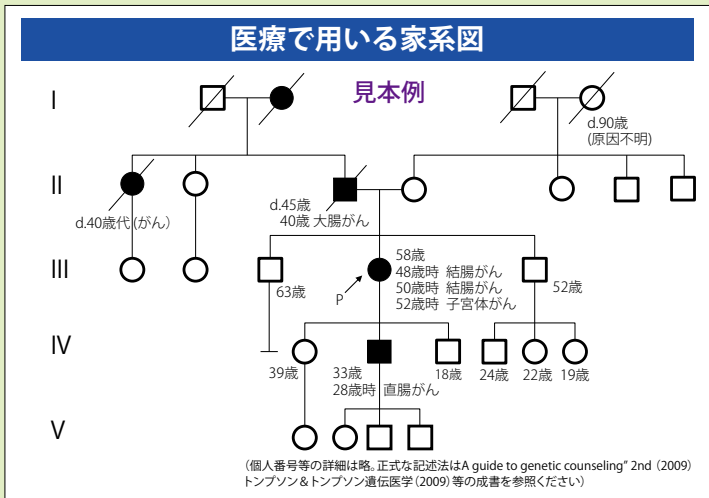
(図1)

解析研究

イノベーション推進・人材育成部門の福島副部門長らが、遺伝学の専門知識がなくても短時間で容易に医療用家系図を作成できる世界初のPCソフトウェア「fitree」を開発しました。これまでの作図には、臨床遺伝の基礎知識と専門的スキルが必要で、聞き取りなどの時間・労力を要していましたが、「fitree」では、問診票にある必要事項を入力するだけで完成度の高い家系図を自動的に作成することができま。臨床現場をはじめ、ゲノムコホート研究や教育現場のほか、一般社会における遺伝の正しい知識の普及に活用されることが期待されています。

これからも、病気のかかりやすさなどの体質と遺伝との関係を調べることで、個別化予防・個別化医療などの次世代医療を発展させ、健康で長生きできる社会の実現を目指します。

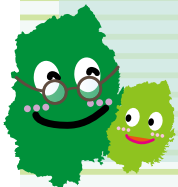
医療で用いる家系図



平成27年度

上半期の活動報告

- 4月3日 宮古サテライト健康調査開始
- 4月6日 釜石サテライト健康調査開始
- 4月7日 矢巾センター健康調査開始
- 4月8日 一戸町健康調査開始
- 4月10日 気仙サテライト健康調査開始
- 4月13日 久慈サテライト健康調査開始
- 4月17日 軽米町ケーブルTV収録・放送
- 4月20日 大槌町集団結果説明会開催
- 4月25日 軽米町健康調査開始
- 5月3日 陸前高田市健康のつどいに参加
- 5月7日 H25年度健康調査結果記者会見
- 5月13日 家系図ソフト開発記者会見
- 5月17日 カシオペアFMに生出演
- 5月29日 二戸市健康調査開始
- 5月30日 岩手医大市民公開講座で講演(矢巾町結果説明会)
- 8月3日 九戸村健康調査開始
- 8月21日 一戸町集団結果説明会開催
- 9月1日 山田町健康調査開始
- 9月10日 東海新報連載開始
- 9月30日 軽米町集団結果説明会開催



IMM事業のおさらい 健康調査

いわて東北メディカル・メガバンク機構が実施する健康調査（「ホート調査」）は、一人ひとりの健康状態を数年間にわたり追跡し、未曾有の震災ストレスによる健康への影響や、どのような人がどのような環境でどんな病気になりやすいのかを調べます。

1 健康調査時（一次調査）

会場で

採血・採尿

腎機能を調べるための尿検査のほか、特定健診参加型では通常の血液検査に加えて30mlの追加採血、サテライト型では45mlの採血をします。

生理機能検査（サテライト型のみ実施）

骨密度測定、内臓脂肪測定、血圧脈波測定などを実施しています。

ご自宅で

調査票記入

生活習慣や生活環境についておたずねする調査票への記入をお願いします。調査票は質問量が多く、細かい内容も多く含まれるため、3冊をご記入いただくためには1時間〜1時間半ほどお時間がかかります。

ご面倒に思われる方もいらつしやうと思いますが、皆さまの身体やこころの状態をより詳しく調べるために必要ですので、ご理解とご協力をお願いいたします。

2 健康調査後

約4ヶ月後……結果返却

血液検査・尿検査・生理機能検査・調査票から得られた皆さまの健康情報は、分析後、冊子にしてご自宅に郵送します。

半年後……追跡調査

健康調査後、数回にわたりその後の皆さまの健康状態をアンケートでお伺いします。

初回の調査票より質問量は少なく、記入時間は15分程度です。

約5年後……二次調査

一次調査と同じ検査を受けていただく予定です。



「お茶は体にいい」のか？



「お茶は体にいい」と聞き、最近コーヒーをやめて緑茶ばかり飲んでる友人がいる。では、あなたにとってお茶は体にいいのだろうか？ この疑問に答えることは実は少し難しい。例えば、お茶と血圧低下の関係について比較すると、お茶を飲んでいる人では100人中70人、お茶を飲んでいない人では100人中50人の血圧が下がったという結果が出たとする。するとお茶を飲んでも30人、お茶を飲んでいなくとも50人は血圧が下がっていないにも関わらず「お茶は血圧を下げる」と結論される。これは「お茶を飲む根拠にはなる」が「あなたの血圧が下がる」という意味ではないのだ。ゲノムコホートのことを考えてみよう。ある特定の遺伝子型を持つ人たちに高血圧が多かったとする。では、あなたにこの遺伝子型があった場合必ず高血圧になるのだろうか？ 答えは「わからない」である。実はある特定の例を除けば、ほとんどの遺伝子型はそれだけで病気や体の変化を正確に予測できるものではないのだ。遺伝子型と生活習慣から「あなたの健康的な将来を予測する」にはゲノムコホート研究による大量のデータ解析が必要である。そのデータが未来への世界遺産になることは間違いない。(1)

